

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北関東)	◎	旅行代理店（経営者）	・春の繁忙期が夏まで続くため、良くなる。
	○	商店街（代表者）	・小学校の卒業生減少はあるものの、卒業アルバムを請け負う写真館が高齢化で若い写真館に移行してきている。そうした動きが当店にも回ってきており、卒業生数は減少でも先行きは明るい。
	○	コンビニ（店長）	・気温の上昇とともに、飲料やアイスクリーム等が売れてくるため、売上全体も増えて景気は良くなる。
	○	コンビニ（エリア担当）	・値上げによる売上の増加が大きいと考えている。今後もこの状況は続いていく。
	○	コンビニ（エリア担当）	・物価上昇による販売数減少が懸念されるものの、日用品やおにぎり、弁当等の食料品販売数は、各種値上げ後の動向を見ても当地域への影響は今のところ限定的である。観光客やデイリーユーザーの利用が引き続き見込まれる。
	○	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・今月の動きを見る限り、先行きに期待できる。
	○	一般レストラン（経営者）	・ゴールデンウィークに一時的ににぎわうのは、コロナ禍であっても変わらなかったため、値上げによる不景気でもゴールデンウィークは例年どおり良くなる。
	○	旅行代理店（所長）	・今年もインバウンドは堅調に伸びることが期待される。加えて、教育旅行も例年どおりに受注できている。日本人の来訪がどの程度伸びるかにかかっている。
	○	旅行代理店（従業員）	・ベースアップが進んでいる企業も多いため、やや良くなる。
	○	タクシー（経営者）	・2～4月にかけて動きが良かったので、この先も良くなるとみている。
	□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・気候が良くなり行動が活発になってくるが、物価の上昇が続いているため、変わらない。米価が少しでも下がってくる7月を皆期待している。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	・例年、桜の時期が終わると減少する外国人観光客数が今年は減っていないのは、大阪・関西万博開催の影響だと考えている。国内観光客の消費は飲食物に偏るため、ある程度の売上規模しか見込めないが、外国人観光客は、日持ちがして食べて消えない物を購入してくれるため、必然的に購入数も増えてくる。この傾向はコロナ禍以降に拍車が掛かっており、今後も続くと予想される。
	□	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・飲料水関係の伸びが悪いものの、変わらない。
	□	スーパー（総務担当）	・政府による景気対策次第で動向は変化するが、物価が下がらなければ厳しい。
	□	コンビニ（エリア担当）	・価格に対する消費者の抵抗感は強いままである。現状にすぐには慣れず、高いと感じて購入を控える行動が続く。
	□	家電量販店（店員）	・季節商材のエアコンは、今年も猛暑となっても前年実績が大きいいため、前年並みが良いところではないかとみている。また、耐久消費財の買換えサイクルが長く、動きが悪くなっている。
	□	乗用車販売店（従業員）	・ゴールデンウィークもあり、稼働日数が少なく、受注は減少傾向のため、受注残も減っている。
	□	乗用車販売店（営業担当）	・今までどおりの生活をしていても出費が増える状況のため、こうした状況が改善されないと良くなることはない。
	□	住関連専門店（店長）	・現状の物価高に賃金上昇が伴っていないため、消費は冷え込んだままではないか。
	□	住関連専門店（仕入担当）	・インバウンドの恩恵もなく、現状が変わる要素は見当たらない。
□	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・区画整理、駅前開発、交通機関整備等の計画はあるが、直近で景気が回復する要因は少ない。	
□	その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・給食事業において、主な費用となる食材費は今後も総じて高止まりが続く。新年度から多くの取引先で受託費の引上げを認めてもらったが、どうしても後追いの見直しとなるため、今後も収益面は厳しい状況が続いてしまう懸念がある。	

□	観光型ホテル（経営者）	・今後の天候が悪ければ、やや悪くなる。気象庁の予報では、気温は高めで雨量は平年並みとのことだが、ここ最近の気候変動に鑑みると、突発的な豪雨や長雨も懸念される。また、政局がどう動くかによっては、悪くなる。現段階では、旅行需要は国内外ともに大きな変化はない。
□	都市型ホテル（経営者）	・外食産業では、コロナ禍明けの販売量の戻りが100%でなくても、前年並みで推移した場合、変わらないとなる。
□	都市型ホテル（支配人）	・新規顧客も獲得できているが、この先も増やし続けることは厳しいため、現状維持で変わらない。
□	旅行代理店（営業担当）	・ベースアップの影響がどれだけ出るか、静観したい。
□	通信会社（営業担当）	・5月以降も多数の品目で値上げが実施されることから、消費が上向く兆しはみえない。
□	設計事務所（所長）	・米国の関税政策が影響しており、上向きになるはずが、変わらないとみている。
□	住宅販売会社（経営者）	・住宅ローンの金利上昇による駆け込み需要は少なく、良くなる要因は見つからない。
□	その他住宅 [住宅管理・リフォーム]（営業）	・受注案件の変化よりも、人手不足による失注が懸念される。また、新規や中途の社員採用ができていない。
▲	百貨店（店長）	・現在の傾向が一定期間続くと想定している。政府の打ち出す政策や米国の関税政策の方向感次第ではあるものの、方向性がみえてから効果につながるまでは一定の時間が掛かるため、当面の間は厳しい環境が続く。
▲	百貨店（営業担当）	・食料品やガソリン価格の高騰は避けられず、一段と慎重な消費行動は継続する。米国の関税問題など不確定な要素も大きく、景況の改善は見込めない。
▲	百貨店（営業担当）	・値上げや価格高騰で、消費マインドは低下傾向にある。買物を楽しむ行動は減少し、生活必需品の目的買いを主とした来店動機は今後も継続するか増えていく。必要な物を必要なだけ購入する動きは加速している。
▲	コンビニ（店長）	・商圈内の有力商店が廃業してから1年が経過するため、やや悪くなる。
▲	衣料品専門店（販売担当）	・4月は桜で人々の気分もほぐれたが、残念ながら、我に返ると物価高が生活に相当なダメージを与えている。客との会話のなかでも、身に染みて伝わってくる。今後に明るい兆しがあればよいが、それも見当たらない。やはり悪くなっていくのではないかとみている。
▲	自動車備品販売店（経営者）	・身の回りで活性化するような材料がない。将来的には悪くなる傾向にある。
▲	その他専門店（総務担当）	・見積依頼が少なくなっている。
▲	都市型ホテル（スタッフ）	・飛び石連休の影響か、宿泊、レストラン共に、予約の伸びが鈍い。宴会予約については、6月の総会シーズンを迎えるが、前年よりも受注件数が少なく、厳しい状況が続いている。
▲	タクシー運転手	・観光地ではない当地では、ゴールデンウィーク等でますます利用客が少なくなる。
▲	通信会社（社員）	・変わらないと考えているものの、当社サービスへの支払は、家計に影響するため、国際情勢も踏まえてやや悪くなる可能性がある。
▲	通信会社（総務担当）	・気温が上がり光熱費の出費が増えると、一段と購入に回せる余裕はなくなる。
▲	通信会社（局長）	・世界的に今後の見通しは不透明である。また、国内の物価対策も不透明で、9～10月にかけて、値上げの商材がまた出てくると予想される一方、給料に関してはそこまでの昇給は見受けられない。
▲	テーマパーク（職員）	・米国の関税政策やガソリン、諸物価高騰等、マイナス要因が先行しており、良くなる状況下にはない。
▲	ゴルフ練習場（経営者）	・物価の上昇に給料が追いつかない。
▲	ゴルフ場（従業員）	・今年も早いうちから真夏のような暑さになり、全国的に高温になるとの予報が出ている。野外スポーツは特に厳しい状況になると予想される。

	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・物価高に加え、ガソリン価格も高いままである。このままでは一般庶民は疲弊し、まともな生活ができる人が少なくなる。当店のような商売だと余計に後回しにされる傾向があるため、なかなか難しい。
	×	スーパー（商品部担当）	・良くなる理由が見当たらない。また、商圈内に大型施設の開業が控えており、その影響も予測される。
	×	乗用車販売店（経営者）	・当地域の自動車メーカーは、北米向けを中心に輸出が約60%あり、企業も市民も米国の関税政策に戦々恐々の状態である。
	×	乗用車販売店（経営者）	・政治の不安定さから悪くなる。
	×	一般レストラン（経営者）	・物価高に加えて人件費の問題がある。人を雇おうと募集をしても集まらず、時給だけが上がり、従業員を雇えない。皆、ワンオペを考えているが、ワンオペにも限界があり、店の独自性を出すことが難しくなる。人を雇うことをやめれば、働き口が減るし、負の連鎖である。
	×	通信会社（経営者）	・依然続く物価高騰で、消費者の買い控えがますます顕著になっている。いわゆる様子見不況になりつつある。
企業 動向 関連 (北関東)	◎	—	—
	○	金属製品製造業（経営者）	・取引先の受注予測から、やや良くなると判断している。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	・これ以上良くなるとは考えられないので、以前より良くなってきた現状が続くとみている。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・例年ゴールデンウィーク中に新設備を導入する多くの取引先で、今期の設備投資を控えている。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・米国の関税政策の結末がみえてくるようであれば、景気は上向きになる。
	□	輸送用機械器具製造業（経営者）	・1～4月はやや良い売上を保っているが、2～3か月先は、どちらかという、変わらないか落ちる傾向ではないかと心配している。
	□	その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・物価高の状況がいまだに続いている。
	□	建設業（総務担当）	・現状、手持ち業務は少ないものの、発注見通しをみると、それなりの量があるようなので変わらない。
	□	輸送業（営業担当）	・景気は変わらない。夏物家電、エアコン、扇風機、夏物寝具等は前年並みの輸送量を確保予定である。しかし、燃料価格の高騰やドライバー不足による手配経費なども高くなっているため、利益は薄くなりそうである。
	□	金融業（営業担当）	・現在の経済状況、為替、関税等をみても、大きくは変わらない。
	□	経営コンサルタント	・米国の関税政策の世界的影響が長引いており、地域の生産動向も依然として不透明である。思い切った内需喚起策が望まれるところであり、地域における中小企業の生産活動の向上も、喚起策次第といえる。
	□	社会保険労務士	・夏のボーナスは前年のように支給されないだろうが、景気は余り変わらない。
	▲	食料品製造業（経営者）	・地方の中小企業の厳しさは相変わらずである。賃上げも大企業のようにはいかず、ガソリンや食品の価格高騰に追い付かないため、景気は悪化予想である。
	▲	化学工業（管理担当）	・米国の関税政策により、自動車関連部品会社の売上減少が予想されるため、当社の取り扱うアセチレンガスの売上も減少する。
	▲	窯業・土石製品製造業（総務担当）	・夏場に向かい、夏枯れが予想される。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	・中国向けの製品は期待できず、また、米国の関税政策の影響が出るとみている。
×	食料品製造業（経営者）	・売上微減のなかで、原材料、燃料、電気代、人件費等は上昇しており、今後はますます厳しくなりそうである。	
×	一般機械器具製造業（経営者）	・地元自動車メーカーが大幅な減産を計画しており、地域経済は厳しい状況になる。	
×	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・米国の関税政策の影響が、どのくらいになるのか想像も付かない。ゴールデンウィーク明けには動きがあるとみているが、先行きは不透明である。	

	×	不動産業（管理担当）	・人件費を上げないと必要な人材の確保もできないが、現状の営業利益では、他社のように上げることはなかなか難しい。
雇用 関連	◎	—	—
(北関東)	○	人材派遣会社（経営者）	・季節的に落ち着いてくる。各地の名所旧跡、遊園地等の地域を中心とした利用も増えてくるだろうが、財布のひもは固く、なかなか難しい。中古車販売店をみても、なかなか売れ筋を探すことが難しいようである。季節が良くなれば、衣料、食品関係もかなり伸びていくと期待している。依然として厳しさは残っている。
	□	人材派遣会社（社員）	・特段良くなる要素はなく、中小企業を中心に若手の求職者不足が続く。
	□	人材派遣会社（社員）	・ビルサービスの仕事量は若干増えてきている。ただし、人手不足が非常に深刻で、段々ときちんと仕事を実施していくことが難しくなっている。客に断りを入れるとか見積依頼があっても仕事を断らざるを得ない状況である。物価や燃料価格等もまだ高止まりをしており、なかなか厳しい。
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数の動向について、医療福祉分野は増加傾向で推移している。建設業は減少傾向で、製造業、卸・小売業は増減を繰り返している。
	▲	人材派遣会社（管理担当）	・派遣で働く人材が少なくなっている。派遣求人は多数あるものの、募集しても人材が集まらない状況が続いている。
	▲	学校〔専門学校〕（副校長）	・短期的には株価の下落が影響し、景気後退が予想される。
	×	*	*